

冬季 国体

スキー

第77回国民体育大会冬季大会スキー競技会「美の国あきた鹿角国体2022」は最終日の20日、秋田県鹿角市の花輪スキー場で競技を行った。県勢は距離で少年男子40キロリーの県選抜（鈴木峻介、落合優真、星川心之介、大場顕真）が1時間42分29秒8で準優勝に輝いた。成年男子40キロリーの県選抜（佐藤凌、菊地哲、石川潤、鈴木貴弘）は1時間38分58秒2で4位に入り、女子20キロリーの県選抜（大場友咲、佐藤愛莉、西塚結、高橋佳奈子）は1時間1分13秒3で8位だった。アルペン大回転少年男子の株木政隆（かぶき・くりゅう、日大山形高）は57秒04で6位入賞を果たした。

スキー競技会での本県の競技得点は43点。参加得点の10点を加えた天皇杯得点は53点で、男女総合成績の順位は5位。女子総合成績は23点で5位だった。スケート、アイスホッケー競技会を含めた冬季大会終了時点での男女総合成績は115点で13位につけた。

県選抜 充実の準V 少年男子 40キロリレー

個人入賞で勢い 2人が区間トップ

ハイライト



〈距離少年男子40キロリレー〉県選抜の2走落合優真（右、北村山高）がトップで3走星川心之介（新庄南高金山）につなぐ
＝秋田県鹿角市・花輪スキー場（撮影・須藤仁）

距離の少年男子40キロリレーで県選抜が準優勝に輝いた。個人種目の10キロクラシカルで入賞した勢いそのままに、落合優真（北村山高）と星川心之介（新庄南高金山）がそれぞれ区間トップタイムをマークしてチームをけん引。北海道との優勝争いに敗れたとはいえ、メンバー4人の表情には充実感がにじんでいた。

1走の鈴木峻介（新庄北高）は2キロ地点で先頭に立つと、緩急をつけた滑りで後続選手に揺さぶりを掛けた。後半の上り坂で抜かれた後も粘って4位でつないだ。

2走の落合は「先頭集団で来たのでびびくりした」。個人種目で6位の3年生は仲間への好走に驚きつつ、先行する3チームの背中を焦ることなく追い掛けた。2位で迎えた残り1キロの場面では、兄の稜介（新庄北高）の「優真いけるぞ」という声に反応。ギアを上げてトップに躍り出た。

1位で滑りだした3走の星川は、先の全国高校大会で優勝した北海道の選手と互角の勝負を繰り広げた。得意な上り坂で「ここが勝負どころ」とペースアップ。ライバルを突き放して4走の大場顕真（新庄南高金山）に託した。重圧の掛かるアンカー勝負に臨んだ1年生は今大会の個人種目を制した北海道選手に逆転を許し、「力の差を見せつけられた」と残念がった。続けて「3人の3年生のおかげで（全国舞台で）優勝争いを経験できたことは大きい」と手ごたえを口に、「今後の成長につなげていきたい」と前を向いた。

4人は「まさか優勝争いに絡めるとは思わなかった。自分たちの全力は尽くせたので素直にうれしい」と、今大会県勢唯一となる表彰台の余韻に浸った。

（小池拓海）